

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4981969号
(P4981969)

(45) 発行日 平成24年7月25日(2012.7.25)

(24) 登録日 平成24年4月27日(2012.4.27)

(51) Int.Cl.

F I

A 4 7 J 31/44 (2006.01)

A 4 7 J 31/44

Z

請求項の数 7 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2010-517544 (P2010-517544)
 (86) (22) 出願日 平成20年7月18日 (2008.7.18)
 (65) 公表番号 特表2010-534103 (P2010-534103A)
 (43) 公表日 平成22年11月4日 (2010.11.4)
 (86) 国際出願番号 PCT/IT2008/000488
 (87) 国際公開番号 W02009/013778
 (87) 国際公開日 平成21年1月29日 (2009.1.29)
 審査請求日 平成23年7月7日 (2011.7.7)
 (31) 優先権主張番号 FI2007A000172
 (32) 優先日 平成19年7月24日 (2007.7.24)
 (33) 優先権主張国 イタリア (IT)

早期審査対象出願

(73) 特許権者 590000248
 コーニンクレッカ フィリップス エレク
 トロニクス エヌ ヴィ
 オランダ国 5 6 2 1 ベーアー アイン
 ドーフェン フルーネヴァウツウェッハ
 1
 (74) 代理人 100087789
 弁理士 津軽 進
 (72) 発明者 トネリ, ステファノ
 イタリア国 ボローニャ, 1-4 0 0 4 1
 ガジオ モンタノ, ヴィア トレッタ
 2 2 2

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 飲料を調製する機械におけるカップ又はその他の容器用のホルダー

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

飲料を調製する機械における飲料を収容する容器用のホルダーであって、グリッド及び前記グリッドを通して流れる液体を収容する下方のトレイを有し、前記グリッド及び前記トレイが磁氣的に相互に拘束され、

前記トレイが、該トレイの底部を形成ししかも液体を収容する容積を画定する下方部分と、該下方部分に取付けできしかも前記グリッドの座部を画定する上方部分とを備えており、

前記上方部分が、前記グリッドと前記トレイの前記下方部分とを結合する磁気吸引力の結果として、前記下方部分と前記グリッドとの間に保持されることを特徴とするホルダー

10

【請求項 2】

前記グリッドが磁性、常磁性又は強磁性材料から成ることを特徴とする請求項 1 記載のホルダー。

【請求項 3】

前記トレイの前記下方部分が少なくとも一つの永久磁石を備えていることを特徴とする請求項 1 または 2 記載のホルダー。

【請求項 4】

前記トレイの前記下方部分が少なくとも一部分、磁性、常磁性又は強磁性材料で構成されていることを特徴とする請求項 1 または 2 記載のホルダー。

20

【請求項 5】

前記トレイの少なくとも前記下方部分が、プラスチック材料が成形されてなり、前記プラスチック材料中に、磁性、常磁性又は強磁性材料が入れ込まれていることを特徴とする請求項 1 または 2 記載のホルダー。

【請求項 6】

前記プラスチック材料中に、磁性粉末が入れ込まれていることを特徴とする請求項 5 記載のホルダー。

【請求項 7】

少なくとも一つの飲料分与送出口を有する飲料を調製する機械において、前記少なくとも一つの飲料分与送出口の下方に、請求項 1 から 6 の何れか一項記載のホルダーを有することを特徴とする機械。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、飲料を調製する、特にコーヒーを調製する機械の改良に関するものである。特に、本発明は、コーヒー機械又は一般に飲料を調製するその他の機械に利用されるカップ又はその他の容器用のホルダーの改良に関する。

【背景技術】

【0002】

以下の説明では、特にコーヒー機械について参照するが、本発明の特徴は、飲料を調製するその他の形式の機械にも有効に使用され得ることが理解されなければならない。

20

【0003】

コーヒーを調製する機械は、自動、半自動或いは手動であるかどうかにかかわらず、一つ又は複数のコーヒー分与送出口の下に配置されてコーヒーを受けるカップ又はその他の容器用のホルダーを有している。これらのホルダーは通常、加熱中に機械から供給される熱湯、或いはホルダーから一つ又は複数のカップを外した後に滴下するコーヒー又はその他の飲料の滴のような、機械の分与送出口から分与される熱湯又はその他の液体を収容するトレイを備えている。トレイ上にはグリッド（網）が設けられ、その上にカップ又はその他の容器が置かれる。本明細書及び特許請求の範囲に関して、グリッドは支持面を形成ししかも液体を下方のトレイに向かって落ちるように適当な開口を備えている任意の部材として構成される。

30

【0004】

幾つの場合には、グリッドはトレイ上に単純に置かれている。その他の場合には、グリッドはトレイに係止される。機械を清浄する必要がある際には、トレイ及びグリッドを含む支持体は、機械から外されなければならない、そしてトレイはグリッドから分離しなければならない。ある場合に、トレイは外して、トレイに溜まっている水又はその他の液体残留物を空にしなければならない。この場合、グリッドがトレイに係止されていない時には、グリッドは落ちるので、偶然の破損を避けるために、グリッドを外してからトレイを空にしなければならない。

【0005】

40

逆に、グリッドがトレイに係止されている時には、ある場合には、清浄作業の前にグリッドを外すことは困難であり得る。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明の一つの特徴によれば、本発明は、先行技術のホルダーの欠点を全体的に又は部分的に軽減するコーヒー機械などのような飲料を調製する機械における飲料を入れる容器用のホルダーを提供する。

【0007】

本発明の一実施形態の目的は、互いに容易に取り外すことができるグリッド及びトレイ

50

を備え、互いに容易に取り外すことができるにもかかわらず、結合した時の高度の安定性及びグリッドの十分な機械的強度をもたらすホルダーを提供することにある。

【 0 0 0 8 】

実際に、一実施形態では、本発明は、グリッド及びその下側に設けられ前記グリッドを通して流れてくるあらゆる液体を収容するトレイを有し、前記グリッド及び前記トレイが磁氣的に相互に拘束されている、飲料を調製する機械における飲料を収容する容器用のホルダーを提供する。

【 0 0 0 9 】

本発明のさらなる有利な特徴は特許請求の範囲に記載され、そして本発明の実施形態を参照して説明する。

10

【 0 0 1 0 】

本発明はまた、少なくとも一つの飲料分与送出口及び前記少なくとも一つの飲料分与送出口の下側に配置される前記のホルダーを有する、飲料を調製する機械、特に排他的ではないがコーヒーを調製する機械に関するものである。

【 0 0 1 1 】

本発明の非限定実施形態を示す添付図面及び以下の説明を参照することによってより良く理解される。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 2 】

【 図 1 】 本発明の一実施形態におけるホルダーの分解図。

20

【 図 2 】 組立てたホルダーの平面図。

【 図 3 】 図 2 の矢印 I I I - I I I に沿った断面図。

【 図 4 】 図 1 ~ 図 3 のホルダーを有するコーヒー機械の斜視図。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 3 】

図 4 には、全体を 1 で示すコーヒー機械が示されており、一对の分与送出口 1 A、1 B を備えている。これらの分与送出口の下方には、全体を 3 で示すホルダーが配置され、分与送出口 1 A、1 B の下方に置かれなければならないカップ又はその他の容器に対する支持面を形成している。ホルダー 3 は機械から完全に外して清浄することができる。

【 0 0 1 4 】

30

図 1 ~ 図 3 には、本発明の一実施形態におけるホルダー 3 の構造を詳細に示している。

【 0 0 1 5 】

図示実施形態において、ホルダー 3 はトレイ 5 を有し、トレイ 5 はグリッド 7 の下側に配置され、グリッド 7 は孔すなわち開口 7 A を備え、これらの開口 7 A は図示例では円形であるが、機械 1 の美的要求の役割として任意の形状にすることができる。

【 0 0 1 6 】

本発明の一実施形態においては、トレイ 5 は、成形プラスチック剤材料から成り、一方、グリッド 7 は強磁性材料から成っている。異なる実施形態では、グリッドは磁性材料から成り得、トレイは、トレイに加えた、トレイに結合した或いはいずれの場合もトレイに拘束した強磁性又は磁性部品を備えることができる。

40

【 0 0 1 7 】

図示実施形態では、トレイ 5 は、分与送出口 1 A、1 B から送出され得る液体を収容する容積を形成する下方部分 5 A を備えている。図示実施形態では、下方部分 5 A は、整形底部を備え、この整形底部は、液体を収容する幅の広い二つの横方領域 5 C と、隆起した中間領域 5 D とを備え、中間領域 5 D の下側には突起部 5 E が設けられ、これらの突起部 5 E は、例えば機械 1 と一体の案内要素内にトレイ 5 を差し込むように構成され、それにより、ホルダー 3 は使用中、機械に安定して結合されたままである。一実施形態では、底部 5 D は、横方領域 5 C へ向って液体が排出するのを促進させるように湾曲されている。

【 0 0 1 8 】

トレイ 5 の下方部分 5 A の上には、上方部分 5 B が配置され、この上方部分 5 B は、ト

50

レイ 5 の下方部分 5 A の横方領域を閉じる二つの横方突起部 5 F を備えたほぼフレーム状の形態に構成されている。上方部分 5 B の中央部分には、グリッド 7 の形状にほぼ対応した形状の広い開口 5 G が設けられ、この開口 5 G は外周座部 5 H で包囲されている。外周座部 5 H にはグリッド 7 の縁部が挿入され、トレイ 5 の上方部分 5 B に収納される。

【 0 0 1 9 】

トレイ 5 の下方部分 5 A の横方領域には、二つの座部 1 1 が設けられ、これらの座部 1 1 は底部が開放し、内部が中空であり、そして例えばトレイ 5 の残りの部分と共に成形法により製作される。これらの座部は、トレイの底部からトレイの上方部分 5 B に向ってのび、ほぼ円筒形ハウジング 1 1 A を画定し、これらの円筒形ハウジング 1 1 A 内には永久磁石 1 3 が挿置される。これらの磁石 1 3 は有利にはペレット形状であることができるが、座部 1 1 及び磁石 1 3 の両方は異なった形状、例えば立方体形状、プリズム形状などにすることも可能である。特に図 3 の断面図に見られるように、ホルダー 3 が組立てられると、永久磁石 1 3 はそれらの位置の結果として、トレイ 5 の上方部分 5 B 及びそれぞれの座部 1 1 の上方部分を画定しているプラスチック材料の厚さを通して吸引力を働かせて、強磁性又は磁性材料から成るグリッド 7 を磁力により適位置に保持する。

10

【 0 0 2 0 】

吸引力は、グリッド 7 がトレイ 5 の上方部分 5 B の縁部 5 H によって画定された座部に留まるだけでなく、前記上方部分 5 B がトレイ 5 の下方部分 5 A 上に十分な力で保持されるように作用する。このようにして、グリッド 7 とトレイ 5 との間及び下方部分 5 A と上方部分 5 B との間に安定した結合が得られる。

20

【 0 0 2 1 】

トレイ 5 に溜まった液体を空にする必要がある際には、機械 1 から支持体 3 を外し、それをシンク上に保持し、傾けてグリッド 7 の開口 7 A を通って液体を排出することで十分である。この場合、グリッド 7 はトレイ 5 の下方部分 5 A 及び上方部分 5 B としっかりと係合したままである。

【 0 0 2 2 】

しかし、グリッド 7 及びトレイ 5 を清浄したい場合には、使用者は、ホルダー 3 を容易に取外すことができ、そしてホルダーを構成している部品 5 A、5 B、7 を相互に分解して例えばそれら部品を食器洗い機に入れることができる。

【 0 0 2 3 】

永久磁石 1 3 は有利には、トレイ 5 の下方部分 5 A を形成するプラスチック材料中に成形工程において組み込まれ得、それによりこれら永久磁石は紛失しなくできる。また、永久磁石は、トレイ 5 の下方部分 5 A を成形した後の後続の組立て段階で埋め込むことも可能である。一実施形態では、磁石はそれらの座部 1 1、1 1 A 内に任意の他の仕方で接着または固着され得る。

30

【 0 0 2 4 】

変更実施形態では、要素すなわち磁石 1 3 は強磁性材料から成る単純な挿入体で構成され得、一方、グリッド 7 は磁性特性を持ち得る。他の実施形態では、要素 1 3 及びグリッド 7 の両方とも磁性材料で構成され得る。変更実施形態では、図示していないが、グリッド 7 とトレイ 5、特にトレイ 5 の下方部分 5 A との間の磁気吸引は、トレイ 5 の下方部分 5 A を形成する材料を磁化することによって、又はトレイを成形するプラスチック材料中に磁性粉末を入れ込むことによって得られ得、或いはトレイ 5 は、トレイを形成するプラスチック材料中に強磁性材料、例えば鉄充填剤又はその他の強磁性材料を入れ込むことで製造され得、一方、グリッド 7 は、磁化材料で構成されるか又は磁化材料に安定して結合され、例えば永久磁石に拘束される。

40

【 0 0 2 5 】

幾つかの実施形態では、グリッド 7 の周囲伸張部に沿って幾つかの磁石が設けられ得る。

【 0 0 2 6 】

いずれの場合も、グリッド 7 とトレイ 5 の下方部分との間に往復磁気吸引力が作用して

50

、組立てた時にホルダー 3 の種々の構成要素を安定化することが重要である。

【 0 0 2 7 】

図示していない変更実施形態では、グリッド 7 は、図示したように二つの部分 5 A、5 B の代わりに、一部片に構成した下方トレイ上に直接取り付けられ得る。この場合、例えばトレイの周囲伸張部に沿った幾つかの位置において又は二つの相対位置において、トレイの縁部に沿って永久磁石 1 3 を配置することもできる。トレイには例えば、グリッド 7 の周囲縁部の係合する周囲座部が設けられ得る。

【 0 0 2 8 】

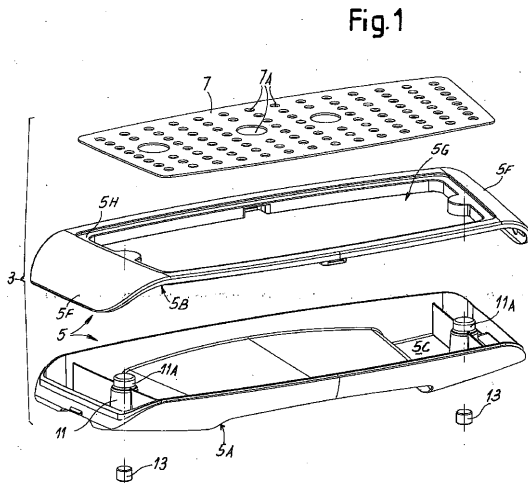
ある変更実施形態では、トレイは、プラスチックの代わりに、金属、磁性又は強磁性材料で作ることができる。

10

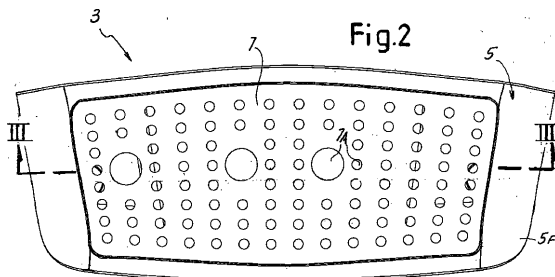
【 0 0 2 9 】

図面は、本発明の実施例として単に挙げた一つの例を示し、本発明の概念の範囲から逸脱せずに、その形態及び構成を変えることができることが理解される。特許請求の範囲における参照番号は明細書及び図面を参照して特許請求の範囲を理解しやすくするためのものであり、特許請求の範囲に記載された保護の範囲を限定するものではない。

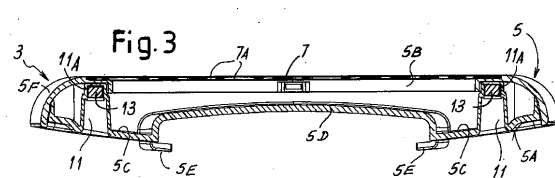
【 図 1 】



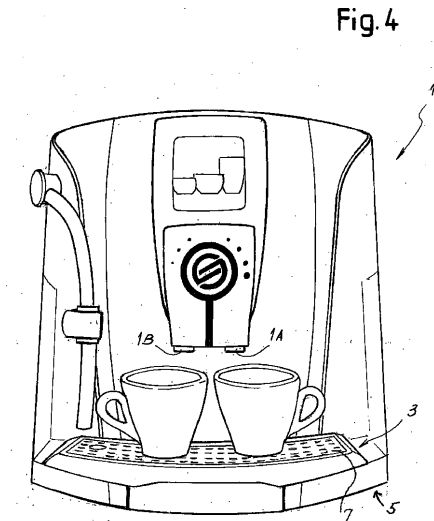
【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】



フロントページの続き

(72)発明者 カステリ, クリスティアノ
イタリア国 ポローニヤ, I - 4 0 0 4 6 ポレッタ テルメ, ヴィア フラテリ セルヴィ 3
5

審査官 結城 健太郎

(56)参考文献 特許第3 0 4 2 8 8 8 (J P , B 2)
実開昭5 8 - 1 4 5 4 4 6 (J P , U)
特開2 0 0 4 - 1 5 4 4 7 0 (J P , A)
実開昭6 0 - 0 2 1 2 3 3 (J P , U)
実開昭4 8 - 0 5 9 0 4 3 (J P , U)
実開昭6 1 - 1 1 8 5 2 4 (J P , U)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

A47J 31/44

B67D 1/00